

黎明期から商工分離まで —古い同窓生の座談会—

「緑苑」創立50周年記念号より
(高田工業高等学校賛助掲載)



—古い同窓生の座談会—

出席者

A - I (大 11 工芸科卒)
S - K (大 11 工芸科卒)
S - S (昭 2 木工科卒)
S - H (昭 5 木工科卒)
Y - N (昭 9 工芸科卒)
T - K (昭 17 木材工芸科卒)
s - k (昭 20 木工科卒)

時 6月3日

場所 高田信用金庫会議室

(学校側)

H校長、T教頭、I、Fの各先生
司会 K先生
録音 n - k (建 3A)
y - n (土 3B)
s - i (機 2A)

校長 私はことしの4月からごやっかいになったのですが、ここに出席させていただいて、学校のいままでの歴史の一端を聞かせていただきますことはたいへんありがたいことだと思っております。

学校も創立以来50年ということになれば、人生50年というように壮年時代を迎えるということになるのではないかと思います。また、工業高校になってからは20年という若いさかりであるという、両面をもった時期であると思うのですが、そういう意味で、今までの先輩の方々から今後の学校の生徒諸君、あるいは学校全体に、先輩の同窓生として希望するようなことをうけたまわれれば幸いであると思っております。どうぞよろしく。

司会 今日はお忙しいところお集まりくださいます、本当にありがたく思っております。今年は10月に本校の「創立50周年を祝う式典がもたれます

が、「緑苑」も50周年記念号として充実したものにしたいと思っております。皆様の在学中の思い出、また、母校に期待すること等をお聞かせいただきましたならば、後輩のためにも有意義と思えますので、お気軽にお話しいただきたいと思えます。

では最初に自己紹介からお願いします。

自己紹介

A-I 私はA-Iと申しますが、大正11年に工芸科を卒業致しました第1回卒業生です。現在、信用金庫の理事長をしております。

S-K 私も同じく大正11年、工芸科卒でKと申します。現在母校に勤めさせていただいております。昨年退職しましたので現在非常勤講師としてです。

S-S 私は昭和2年木工科第6回卒で市会議員をしております。Sです。

S-H 昭和5年木工科卒で、S-Hと申します。

Y-N 昭和9年工芸科卒のNです。

T-K 昭和17年12月くりあげ卒業で、木材工芸科卒です。家具製造業をしております。舟見先生と同期です。

s-k 昭和20年木工科卒です。ミシン電器商をしております。

教頭 昭和20年に本校に勤め、現在に至っています。

I 昭和21年から本校に勤めています。

F 私はFと申しますが、こちらの学校にごやっかいになったのは25年からです。

司会 どうもありがとうございました。それではこれから、思い出のできごと、思い出の先生等、在学中に最も印象の深かったことを、お聞かせいただきたいと思えます。

最初にA-Iさんいかがでしょうか。

A-I いちばん最初にはいってからめずらしかったのは学校の展覧会ですね。生徒の手で自主的にやったというもんだな。泊り込み式で、装飾から陳列まで全部ね。めずらしい、できたての学校ですからね。市民もびっくりさせられた形でしたね。あれは1年の時だったかな、いや、2年の時だったかな。

司会 S-K先生、いかがですか。

思い出の先生

S-K 私は特に思い出というのも…。何年ごろかあやしいが、寺子屋式なもので……。岡という先生がおられまして、論語や孟子の教話を話されたときの、はおりはかまで、ほんとしんからお話しになったのが感慨深いですね。

Y-N 岡先生というのは、私もいちばん最後になりましたね。1年生の時に漢文をならいましたが……。

S-K 私たちの時代は実習が主体になっていまして、学科というのは国語か書道か…。

A-I あの先生はシオビキばっか持って来たんだな。それでシオビキというあだ名がついたんだ。(笑い)岡宗平といったかね。

Y-N 山に登りてめしをくらうなんて……(笑い)。

S-K あの時代は修身も国語にまざっていたようで、5年制になってから修身

も、またはじめて英語とか数学とか歴史も……。学校は今の図書館のところで、そして私の教室は階段の下で、いちばん小部屋でした。

S-H S-S さんの時も？

S-S そうです。私の時は廊下に障子戸がはまっていたんです。冬になると、廊下側にいますと全然字が見えないで困ったもので。しかしそれも2学期までで、12月に新しいところへ移りました。雪が降っている中を新校舎へ机を運んだのですが、うれしいことで。

いま一つは彫刻ですね。それまで裸体彫刻を見たことがなかったのですが。岡崎先生が着任されてね。帝展へ入選した作品が送られてくるというので、それをとりに行って、私たちがほぐして学校へ持って来て。はじめて石こう像を見たのですが、はじめてでめずらしがったり驚いたりしましたが。

いま一つは5年生の時に、学科が当時の中学校などと比較すると少なかったのですが、工業でありながら数学は初歩的でしたので、幾何とか代数しかなく、三角とかいう高等数学ですね、ああいうものを小林先生にお願いしたわけなんです。先生はもっともだとお考えになり、どの程度のものをいれたらよいか調べられて、全国から42種類ほどの学則をとりによせられましたね、また文部省のほうへも聞かれて、2週間くらいかかって調べていただいたのですが、その結果、現在ではこの学校としてはこの程度でよいのだと説得されましたが、あれなど心に残っています。

あとは神谷先生が私たちと戸隠へ旅行された時、ぼくらが規則を破って(だれかが聞いてよいということだったので出発したつもりなのですが。)先に新社から出発してだいぶ行ってからですが、先生はこうもりを片手に持ち「待てー待てー」と言って追って来られて、一の鳥居のあたりで私たちに追いつかれて、一の鳥居と中社の間をとびとおして、ぼくらも疲れているのに、たしか先生は60才くらいでしたが、へとへとで、まっさおな顔をして……。ぼくらが出発した10分ばかりあとで気づかれたのですね。「自分は引率の責任者だから、もしかのことがあったら」ということで……。あれにはたまげましたね。

あとは、いちばんお世話になった鴛海先生。あの時先生には子どもがなかったのですよ。奥さんが初産をされたのがたしか42くらいで。先生はほんとうに喜ばれて、さっぱり授業にならないんだ。よっぽどうれしかったと思われますね。

補習科のこと

I そのころでしたか、補習科というのができましたね。それについてお話ししたいのですが。

A-I あれはたしか私たちが4年生になる時だったと思いますよ。

I どんないきさつでできたのですか。

S-K あれは5年制移行に備えてでなかったですか。

I それでは補充兵みたいに、5年制になったとき、すぐ5年生の中に編入するためというわけなんですか。

A-I そういう希望を学校としては持っていたのではないですか。

I それは試験をしないで無条件で？

A-I そうです。ですが私は、5年終る、また5年制になったから、また編入されて1年。ですから2年やったことになり、学校に6年間いたわけなんです。

I じゃあ、補習科を出た人と補習科を出てさらに最後の学年編入をやった人があったわけですね。

S-S 私たちが入学した時は、A-I さんたちは卒業されたんですね。

S-H 私たちがはいったころ S-S さんがおられて、雄弁家でね。よく校長さんや岡崎先生に再三、こんな実習ばっかりの、学科の少ない学校はないと大上段で言ったもので。そのおかげで、機械を2単位やるようになったし、数学もやるようになり、地歴も、また、英語もよくやるようになったし、おかげで、実習が少し少なくなったようでした。それでも1年で6時間、2年で10時間、3年以上になると12時間くらいあって、毎日あって、花見のころになると実習をさばって見に行つて。(笑い)。西山先生につかまえられて、「そんなに実習がいやだったら工科をやめろ」などと言われたもので……。また、部屋が多いので掃除がたいへんで、毎日の掃除と実習がいやだったもので……。

S-S でも毎日となると習慣でみんなやっておりましたね。

S-H 1・2年生は一クラスずつですが、3年以上は5・6人が一つの小さな部屋だったので、工科の先生と仲がよく、よく家に遊びに行つたもんです。作品なんか直してもらうのをあてにして行つたもんですから、親しみはあったと思いますよ。

月月火水木金

T-K 私たちがはいったのは昭和13年で日支事変が始まって4年目だったので。はいるとすぐ国防色の服を着せられて、(帽子もそうだったし)あれを着て通うので、みんなジロジロ見ていたもんだつたです。私等がはいった時からもう夏休みはなくなって日曜日もなく、月月火水木金で、勤労奉仕に出たもんです。卒業も私らの時から繰り上げで、12月になって……。

S-H 学校に初めて配属将校の来たのは、S-S さん、いつごろだったですかね。

S-S 私ら1年の時は小川さんで、霜川先生がその次で北村大尉が配属将校として来られたのは4年の時で。

I それは大正の何年ですか。

S-S 大正13年だったと思います。そして軍事教練をやらされました。

S-H 4年5年は鉄砲を持ったんですけど、1・2・3年は徒手でやったものです。

S-S ええそうでしたね。村田銃で、5年生の時これが来たんで。

T-K 私らは5年の時3人で、4年の時は村田銃でした。

A-I 先が欠けていたんで、満足なのがなくて、その代り野外演習の時は大きい音がして。

I s-k さんは学徒動員にいらっしゃつたんですか。

s-k 私は大東亜戦争の時の12月8日の日は1年生だったんですよ。私らは本当の勉強をしたのは2年間で。2年生の時から今の商業高校の所で機械を使用して木製ドラムカンを作つたんですよ。ベニア板で。そして4年の時卒業となつてしまつたんですよ。

まあここに S-K 先生もいらっしゃるんですが、よくおこられたもので不幸と言えは不幸な時代でしたね。

あの当時は英語は廃止になって、1年生の時ABCを習つた時代で、あとはもう英語もならわず、まあスパルタ式と言うのですか、T-K 先輩もいらっしゃいますが、先輩が一番こわかつた時代です。

I その時予科練か何かに行つたもんですか。

s-k 2年の時から強制的でして。それから入学試験はあのころ、たいへんで

木工科も2倍近い倍率があって難関だったものですね。

I 兵役延長とか、そういった特典はなかったのにですか。

s-k ええ。強制的に受けさせられましたね。

私ら同級生でも7、8名くらいが予科練へ行きまして。あとに残った背の小さい者だけでドラムカン作りをしたものです。そして繰り上げ卒業で4年卒業。卒業証書は紙がないためにビンセンに書いたものでして。

I それお宅にないですか。

s-k ええ、あると思うんですが。当時の写真もたくさん持っているんですけどねえ。写真狂っていうんですか。とにかく写真屋へ行ったんです。

I ほほう。

s-k 当時、「から手」がはやりましてね。帰りけんかの絶え間がなかったです。それはすごかったですね。徹底して悪いことをやった時代なんですね。今だったら完全に退学でしょうね。

ドラムカン工場のこと

S-H ドラムカン工場かなんかの写真はありますか。

s-k ドラムカン工場の写真は秘密のために絶対うつさせていただけなかった。当時いちばんよく知っていらっしゃる方はいちばん親方だった、さかなやをやっておられる石原さんなんです。それに大工さんをやっておられる清水さん、それから長谷川というところやさん。そしてあの人たちがいちばん恐ろしかったもんです。

私がちょっと機械科におりましてね。4年生でしたが、その機械科の係をやらしてもらいましてね。それでほとんど徹夜でして。それで今でもいちばん印象に残るんですが、米の配給とみその配給があるんです。そして学徒動員に出ている者だけがみそしるをどんぶりにいっぱいもらうんですけどね。まあそれだけが楽しみで働いていたんだと思うんですけど、今になってみれば、夜は古田校長が夜回りされて、夜中の12時～1時ころまで回られたんです。私たちほとんど徹夜みたいなことをやっていたんですが、よくあれで体が続いたと思いますね。それでまああれは船に積んで行くんだと思いますけどね。

それから大砲のたま、あれを入れる箱、棺桶みたいですよ。あれは栗田家具屋さんにごんごんおさめたわけなんですけれども。まあ、ああいうものを学校工場ですうっとやっていたものです。

学徒動員と予科練

I 学徒動員と、その予科練へ行った人で、戦死した人などあるんですか。

s-k 私の組にはなかったんですが、上とその上の組にはありましたですね。最後の日に突っこんでいったのもおりますしね。

I 木校の予科練で戦死した人がS-K先生、あったんですか。工科ではないですか。

S-K 中退で……。

S-H 中退で。ああ、卒業しないで、3年で、あの軍からの命令でお前の学校は何人だ、と言ってくるのです。

I ああ、割当て形式で……。

S-H 中退になりますと、生き残った者はあとでもどしてね。3ヶ月ほどで証書をやったね。そりやまたごっちゃになって、また困るんだ。別におきましてとにかく3ヶ月ばかりで卒業証書を渡しまして出したもんですから。命を投げ

出したような連中ばかりで、普通の先生がもってもだめ。あぶなくて。それでね、数頭さんにもたしたわけですよ。それでキアイを入れてだ。頭を伸ばしているしね。まあご無理ごもつともで卒業証書を渡したわけだ。

I じゃあ本校でも戦死した人があったのですね。

S-K あの、あれで戦死しているのが2人だけです。

I そうですか。

S-K それで、中退で戦死したのがこういう名簿には載ってありません。

I それで2人工科で戦死したんですね。そういうのをいま記録にとどめておかないと。戦争とそういうのを……。

一同 ああ、そうですね。

I これを今度沿革史に載せたいと思います。

T-K たしかにあの当時は工科万能時代でしたね。私らも卒業した時、商科出が42円、工科出が43円ですか。

I ああ、初任給が。

s-k はい、商科は全然使いものにならんのですよね。

A-I それで終戦まぎわに商科廃止になりましてね。

S-H それで人気が出たのですね。

s-k それから私たちの学徒動員というのは信越化学、日曹田口工場でマキしよいで、あれはまあ山おくからマキかつぎでね。あれは夏休み返上で、夏休みもそれをやらさせられたんです。私も一回あれを休みましたら警官につかれましてね。「なぜ休むんだ」って尋問されましたけどね。そういうことを今でもおぼえていますよ。だから現在の姿は非常に楽だと思いますよ。

I 日曹へ動員したのはどこのクラスですか。

S-K 商業の商科の生徒です。

I そうすると s-k さんは商科といっしょに日曹へ行かれたんですか。

s-k 私たちは工科ですから、また別の行動で。

学校でいちばん楽しかったことは頑張り競争なんですけど、あれは今でもまだ忘れられないことばなんですけれども、柏原まで夜中の12時に校門を出発しましてね。もう一つは糸魚川まで。それから柏崎へも1回行きました。

それと2里半のマラソン大会。ああいうのがまあいちばん学校時代の思い出として残っています。

s-k で、一番勤労奉仕で当時楽しかったのは女子の生徒といっしょに仕事するのが何よりも楽しくてね。だいたい校門の前をおばあちゃんたちが通ってもわあわあ言った時代でしたから、ほんとにもう今の学生を見るとうらやましいなと思うくらいです。

I 女に対しては鎖国時代でしたから。

上級生の権威

s-k そうですね。たえずもう先生にはたかれなければ上級生にはたかれて……。まともな顔していなかったです。もちろん私たちも同じ事をやって来たんですがね。ほんとにもう、申しわけないと言ったらもう……。

I 東京農大の事件もありますけど、あれみたいに上級生が下級生に対して統制を加えたり、うちの学校の生徒あたり、応援団なんかだんだん下級生に対

して「立て」だとか「すわれ」だとか、ぼくたちがやったと同じ事をね。どこで覚えてくるんですか、戦争以後の子供だから覚えるはずがないんだが、覚えてくるんですね。

T-K しかし、あれはまあ……。あのカンカン式を禁止してから、教室まわりがひどくなったね。

カンカン式ですが、講堂でやったのはそうひどくはなかったんですがね。みんな見ているから。ひっぱたかなけりゃたたき出すってくらいですけど、教室まわりになると、ひどいんだものね。

I どういうことで、そういうことをするのですか。

A-I 昔のことばでいう「生意気」だというわけだ。

I 軍縮時代も戦時中もこういうことは変わらないんですね。

S-S あの、私たち4年生の時に下級生を集めてそれを1週間だったか、ひと月ごとだったかにやったものです。その時は「映画見にいっちゃいかん」とか、いろいろな規則があったもんですよ。その時靴をはいてこなくてはいかんとか言って、違反した者はみな5年生がたたき出しているんですよ。そしてひと月に一回反省会をして、その時に違反した者を集めてぶんなぐったものですよ。われわれは工科でしたから、あまりこれに該当する者がなくてね。1回か2回しかありませんでしたね。

高田中学と張り合う

I S-Sさんのころ、高田中学のストがさかんに行なわれた時代でしたね。

S-S ええ、ストが始まりましたのは私たち5年生の時からです。5年生が金谷山へ行った時です。

I あの時分、高田中学すごかったんじゃないんですか。

教頭 ええ、私が4年の時だ。やっぱり山にたてこもって。

A-I 商工学校は数少ないからね。高田中学と張り合ってね。

我々は元気いからです、町を歩いていても我々がゆくとみなよけて歩いてた。

S-S 野球だってそうですね。負けなかったね。

教頭 あのころ強かったですね。

T-K 学校の大会も、まあ、あれはけんかじゃなかったんですか。

S-H けんか、いやけんかじゃなく野球だね。高田の早慶戦だからね。

S-S 野球の時にはけんかするつもりでむこうへ行っちゃうんです。

T-K 集団でけんかしたですね。

A-I 高田中学の5年生はわれわれに歯がたたんでしょう。だから卒業生に頼むんだ。だからわれわれ荒川に夏、水泳に行く、そうすると、夏休みに卒業生が帰ってきているでしょう。大学へいっている……。そういうのにつかまるんですよ。私は2、3回つかまった。

S-S 私たちが1年の時に、5年生で一番上の人は大森さんで24で、堀川願重寺(宣証)さんが23、それから岡庭さんも。

A-I 5年生になってまた再編入してきたものですからね。

S-S 主任の先生より少し年上で。

A-I みんな先生を困らせて……。だれ一人として我々は学校の先生に学生当

時かわいがられた者はいないですね。全部きらわれたものです。

それでまた、卒業してからみな先生と懇意になって。あれだけは妙ですね。

大ぜいのクラス

教頭 s-kさんは20年の卒業ですね。その後の卒業生はきょうは一人もいないんですよ。それで、私が勤めたころをちょっと話しますよね。

私が勤めたころといっても古いんですけど、s-kさんが卒業された年の7月ごろに教壇に立ったんですがね。商科が機械科になっていて、まあその当時ですから授業なんかろくにしないで、道路工事ばかりで、今の18号線の一部なんかやったんじゃないんですか。川原からこんな大きな石を運んで、荷車に積んで道路に運んだ。先生なんか例の戦闘帽をかぶって。そして戦争に負けた瞬間、機械科がまた商科にもどったんです。機械科にいた人が商科にかたまり過ぎるといので建築科に流れこんできて。そして私のもったクラスは78人で、もうものすごい大ぜいだったんです。はいる部屋が、いまの商業高校の図書室で。

S-H ああ、応急室にね。

米軍捕虜との事件

教頭 ええ、それ以外にないんですよ。78人もはいる部屋が。もう、成績表なぞ作るのがたいへんだったです。それで今覚えている中で、8月17日かな、終戦から3日ですか、直江津の補りよが解放されて高田へは行って来たんですよ。その時に起こった事件にこんなのがあるとは思いませんよ。17日に陸軍大佐らしきものがどなりこんできたんですよ。おたくの学校の生徒は国賊だと言うんですよ。某先生が聞いてみたところ、裁判所のかどに坂田という床屋があるんですが、あそこに私の学校の生徒が5、6人並んで歩いていましたよ。その床屋の前に来たところに補りよが3人ばかり出てきたんですよ。床屋から頭を刈ってね。そして何か投げってくれたんだな。そしたらその生徒の前に白衣の傷病兵がいて補りよが投げたキャラメルや何かを拾っていたんだ。それを陸軍大佐が六華寮の中でつつ立って見ていたんですよ。それがうちの生徒と白衣の傷病軍人とがごっちゃに見えたらいいですよ。そして生徒が六華寮の前まで来たら陸軍大佐が待っていたんですよ。終戦3日目なので軍人はみな興奮しているんですよ。それで、傷病兵もごっちゃにしておこり出して国賊だというので、第四銀行のところでなぐり出して大きわぎをしたんですよ。そして私の所へ刀をさげてどなりこんで来たんです。終戦後3日目なのでそういうふうな気分がまだ抜けないんでしょうね。

三船浩のこと

そしてもう一つが例の名古屋へ動員されたのが帰って来たんですよ。職工やなんかと一緒に暮らしていたから、それこそみんなタバコは吸うし酒は飲むし、数室へはいつでもなかなかおさまらないですよ。その中に今歌手になっている三船浩、あれが森田尚三と聞いていたんで、それを教えたおぼえがあるんですよ。それが進駐軍のトラックでうちの人足が来たんですよ。それがグランドには行って来て、人足と三船の仲間らがけんかをしたんですよ。そしてアメリカの進駐軍が校舎へは行って来て、けんかをした生徒を出せということです。そしたら幸田先生が出て来て通訳をしたんです。むこうはあくまでけんかをしたやつを出せということです。そしたら三船浩じゃないが森田が出て来たら、That boy1'だと言うんだ。そしたらそれがけんかをしたんじゃないでけんかしたのを仲裁したんだ、と幸田さんの通訳で言ったら、それでOKと言ったんですよ。そして、それ以上つつこまないで帰って行った。そんなこともあったんです。終戦直後のことですがね。

それから22年の12月に今の商業高校から吹雪の中を机やなにかを引きずって今の校舎へ持って来たんです。図書なんかも千冊ぐらいしかなかったのを五百冊くらいに分けて持って来たんです。そして少しばかり商業によけいとられたんですよ。

Y-H それから陳列棚ですが、これは上下になっていますね。上だけが今でも私のところにあります。そして下がむこうにあるんですよ。（笑い）

ライト中尉

I あの時、教頭先生、あの兵器所をうちの学校に払い下げてくれることを決めてくれたアメリカのライト中尉という人がいましたね。あれが国務省と何かの関係でちょっと指さしたら中等学校に決まったんだそうですね。

教頭 そんなに簡単だったかね。

I そしてこれはどっかへ持って行けと言って片方をどこかざいごへ持って行ってしまっただけで、それほどの権力を持っていたんですよ。

教頭 そして今のグランドの所に同じような棟が5つばかりあって、それを解体して安塚へ持って行って安塚高校にして、新井へも持って行って新井高校として、だから新井高校へ行くと建物が似ていますよ。同じようにまん中に2間の廊下があってね。同じ材料だから建て方を変えるわけにはいかないんですよ。

I あれはほとんどライト中尉が権力を持っていたんですよ。ライト中尉の写真はどこかにないですかね。

S-H ライトさんからメエヤさんにうつったから川島さんが持っています。川島さんはメエヤさんのお気に入りですね。

教頭 今の古い体育館の中に大砲がはいっているでしょ。大砲は終戦の時アメリカが来て、大砲を持っていると罰せられるので、急いでお堀の中へつつこんだんですよ。大砲は半年ぐらい池にのめったようにしてあったんですよ。車や砲弾、それに弾薬箱はもらって、今でもありますよ。うちの所の米びつは弾薬箱ですよ。

そして23年の夏に土居校長さんが来られたんですよ。

I 今度沿革史の中に「戦争時代」というのを一筆もうけたんですけれど、あれがなければ本校はまだ商校と分離していないかも知れませんよ。

商校との分離

S-H そうですねえ。負けなければまだ分離していなかったんですよ。

校長 どうして分離ということばが出てきたんですか。

I あれは戦争中に商科がなくなって工業科だけになって工業学校になったんですよ。それで商業学校が事実上なくなってしまったんです。そして戦争が終わったら商科復活運動が起こったんですよ。そうしたらこの際、商業と工業とを分離しようではないかという話が出て、商業がどこかへ移るか、工業がどこかへ移るかといったんですが、工業が設備の都合もあるので移そうじゃないかというので商業と工業とができたんですよ。

教頭 だから商科が機械科になって、機械科が商科にうつらないでいれば商科はなくなっていたわけですよ。だから機械科がまた商科にもどったから商業高校になったんですよ。

終戦直後、米軍の軍事顧問が来たんですよ。

S-H そんな時ぼくは配車係を。その時に西条さんたちや古川さんや岡庭さん、

それに市会議員の商科の先輩の人たちが商科復活にのり出して高田高校に商科を吸収するということだったらしい。

しかし結局、これは普通高校に吸収する問題じゃない。できるなら商校として復活しろ、ということになったんです。そして復活して、その後工科と分離して……。

I あの時に学校の統合問題が起こったんじゃないんですか。生徒数がたりないと統合するといったんじゃないですか。

S-H ええ、そうです。そしてさかんに女子高といっしょにしろと言ったんですね。男女共学にしろと言ったんです。そして高田高校は女子を採ったんですがね。北城はいぜん男子をとらなかったですね。そのかわり定時制を置いたんです。

I 記録によりますと、昭和24年に高田へライト中尉がやって来ましてね。女子生徒を入学させろと言っているんですね。だからそのころから工業学校へ女子を入れろと言っていたんですね。ライト中尉は美男子だったそうですね。

それからやはり24年ころに学校統合があって、商業高校がつぶれるか工業がつぶれるかと言っていたんですね。しかしいっしょになるのがいやなのでとにかくやっとならしたので、工業高校のPTAが金を集めて商科独立運動に活躍したらしいのです。それが商科ももとは一身同体だった学校という親孝行の気持もあったようです。

S-H 工科が分離する前に商工科が独立することが先決問題であった。商業科が普通科にもって行かれることは困ったっていうことだったな。

I 昭和24年11月18日に初めて商業高校を認めるという通知がきたんです。それで、PTAで金を集めたんですけれども、もうこれでいいということになってけりがついたことになっています。

司会 いろいろとむかしの思い出話をお聞かせくださいまして、ありがとうございました。もっともとお聞かせいただけただけならと思うのですが、残り時間も少なくなってきましたし、これから「母校に期待すること」の題で、御意見を述べていただきたいと思います。先輩として、後輩に、また、学校に望むことを自由な角度から述べていただきたいと思います。

母校に期待すること

A-I われわれの時には元気がよくて、すべきことは何でも先生に言われる前に生徒が一丸となってやるという気風が強かったですね。今の生徒はおとなしいのかどうかね。各科に分かれているせいもあるのか活気がないですね。心の何かがたらんのじゃないか。

校長 会長さんのころは先生は何人くらいおられたのですか。

A-I 12, 3人だったと思います。

S-H やはり50年のずれがありますね。

I 塾的なたくましがほしいですね。これだけ設備がそろっているのだから、やれないことはないですね。

S-H むかしは、設備のかわりにファイトが、それを補っていたのですね。

T-K 私は木材工芸科を卒業したのですが就職して機械科に入れられたのですね。それで工業高校卒は、専門的な深いことはわからなくても、一般的なことから対等に話せるように、また、何でもやればできるというファイトを持つように望みます。

I いまは生徒の大量生産、それから、先生の大量生産ですね。むかしは先

生にもかわった先生がおられたのではありませんか。

S-S むかしは先生の責任感が強かった。先生自体にもフアイトがありましたよ。

I 先輩として本校の生徒に街で会ったりした時の感じはいかがですか。

s-k 本校の徽章を見るとやはりなつかしいですね。

しかし、私がいまいちばん望みたいのは、みな都会へ行ってしまうので、たびにあこがれるのもよいが、もっと地元で優秀な生徒を残してほしいということですね。

Y-N ことしの傾向としてはわりあいに残るのではありませんか。

S-H 小さい所で自分で主導権をにぎったほうがやりがいがあるのですよ。

教頭 大会社では縦の組織がしっかりして上へあがれないから。

s-k 先生はあまり大きくない所に生徒を連れて行って見学でもさせればよいのではありませんか。

A-I 本当に意志の強い人は2、3年で工場をやめて、自分で独立してやったほうがよいと思いますよ。

I 本校の生徒の気風についてはどうお思いですか。

T-K 普通高校に比べて問題を起こす率はどうですか。

教頭 高田高校に次いで少ないのではないですか。

I 大学への進学率がよくなってくると、いよいよ実業高校は中間的な存在となって、生徒がプライドを持たなくなるのではありませんか。

S-H しかし工業はわりに質のよい生徒がいるので、やりよいですね。

S-S できるだけ設備のよい学びの場を与えてやりたいと思いますね。これは期待というよりも希望ですが、それにしても私たちの時に比べれば設備などは数段よくなってきたし、技術面では設計などで、全国的にもかなりの成績をあげていますから、りっぱなものですね。

教頭 ある先生の話では表日本の工業高校などで、3年生がこちらの1年の終わりの程度しか力がないのもあるそうですし、こういうことを誇りのたねにして、やればできるという気持を持たせたいですね。

A-I そのとおりですね。やればできるし必ずやりとげるという信念でやってもらいたいですね。

司会 ではこのへんでいろいろと貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。むかしのいろいろな思い出、後輩に期待すること等、若い人たちの今後に参加になる点多々あることと存じます。お忙しいところほんとうにありがとうございました。

秋の句

とどまればあたりにふゆる蜻蛉かな	汀女
蜻蛉のさらゝ流れ止まらず	虚子
菜畑やこまかくなりし秋の蝶	白貧
曼珠沙華どこそこに咲き畦に咲き	左右
鶏頭の夕影並び走るなり	たかし
ふるさとの縁のひくさよ葉鶏頭	普士枝

一季寄せ(虚子編)より一

